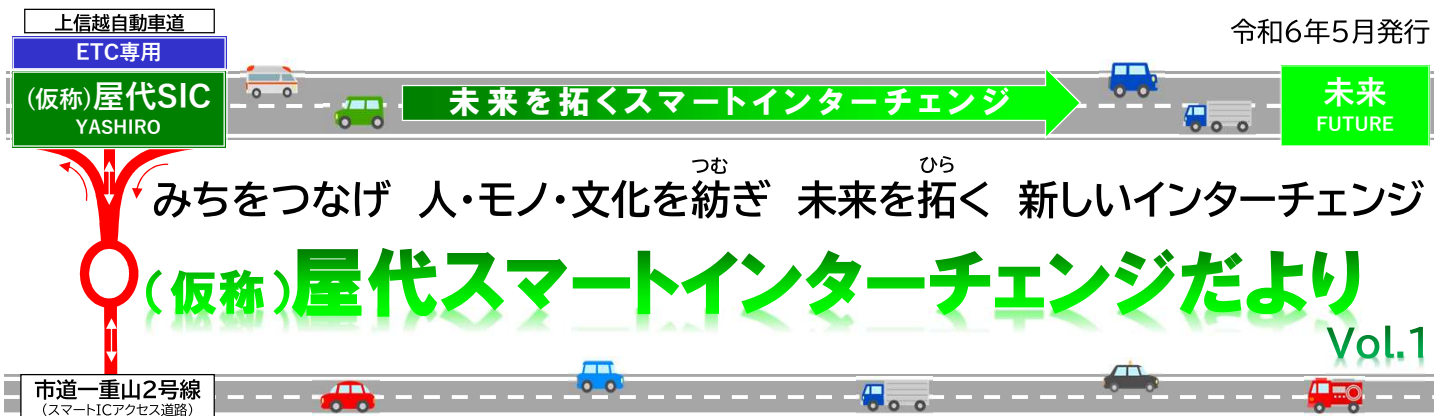




◎ はじめに

千曲市では、「交通の要衝」という市の大きな強みを活かしたまちづくりを進めています。中でも東西産業連携軸(※)をはじめとした市内主要交通ネットワークのさらなる拡充は、市が目指す安心・安全なまちに大きく寄与するとともに、市全域に「人」「モノ」「文化」などの新しい流れを紡ぎ出すことで、産業の促進・地域の活性化、ひいては自主財源の涵養、持続可能な行政運営につながると考えています。

そうした中で、従前から進めてきた上信越自動車道との接続を可能とする(仮称)屋代スマートインターチェンジ(以下;スマートIC)の設置に向けた取り組みが実を結び、令和5年9月、国より連結の許可及び新規事業化の決定(右図1、図2:参照)がなされました。同年12月には、市と東日本高速道路株式会社(以下;NEXCO)が施工区分・費用負担などを定めた基本協定等を締結し、現在、互いに協調しながら関係機関との調整や測量調査・設計の着手などスピード感をもって進めています。

また、スマートICのアクセス道路となる市道一重山2号線(国道403号～県道白石千曲線間)は、令和2年度から千曲市が事業化し、これまで測量調査・設計、用地取得を進めてきており、現在一部区間で埋蔵文化財発掘調査が始まっています。

この新しいスマートインターチェンジ事業は、市の重要施策であるとともに、長年にわたる事業であることから、市民の皆様はじめ関係各位の理解を深めていただくため、本通信の発行を通じて定期的にお伝えしていきます。

【※】 東西産業連携軸(右図3:参照)とは:

近年新設された雨宮・八幡東産業団地をはじめ市内主要工業団地を東西で結びつけ、団地間の連携及び相乗を促進させる主要幹線道路

◎ (仮称) 屋代スマートICの概要

- ・設置計画箇所: 上信越自動車道(坂城IC～長野IC間)(右図4:参照)
- ・接続形式: 本線直結型
- ・形式: フルインター形式(全方向)
- ・運用形態: ETC搭載車両全車種 24時間

当該スマートICの詳しい内容は、市のホームページ(下記のように検索いただくか、右の二次元コードの読み込みにより)をご覧ください。

(仮称)屋代スマートインターチェンジ 検索



↑図1 R5.9:スマートIC新規事業化決定(国プレス資料より)



↑図2 R5.9:国より市に対しスマートIC連結許可書が伝達された

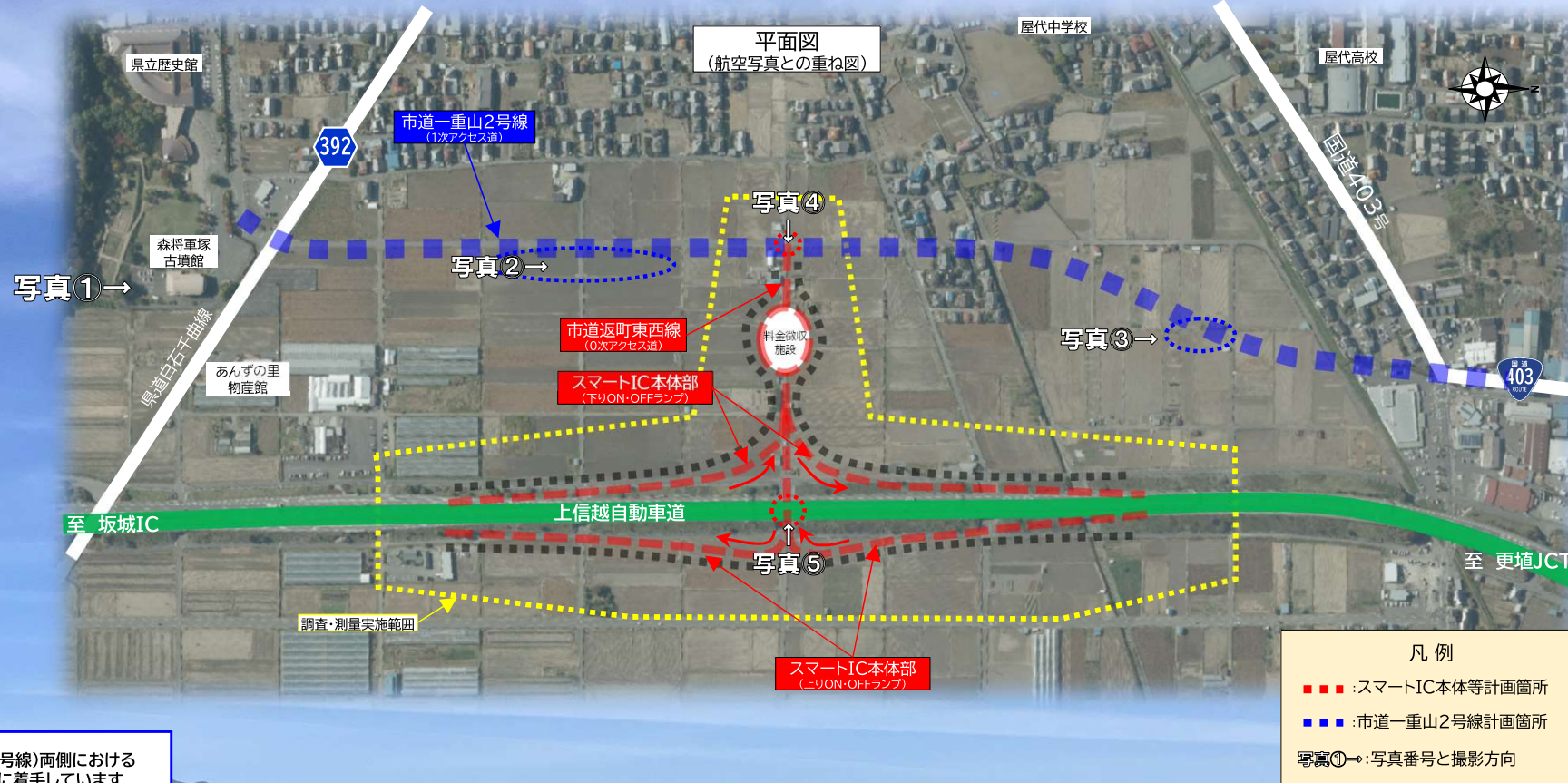


↑図3 東西産業連携軸位置図



↑図4 設置計画箇所(広域図) (次のページ)

森將軍塚古墳から望む (仮称)屋代スマートインターチェンジの 『今』の様子をお伝えします



写真③:道路部(市道一重山2号線)両側における用水路・畦畔(けいはん)工事に着手しています



写真④:スマートIC・市道一重山2号線との交差点予定箇所



写真②:道路拡幅部(市道一重山2号線)における埋蔵文化財発掘調査に着手しています



市道一重山2号線
(スマートIC1次アクセス道)
整備箇所

(仮称)屋代スマートIC
設置計画箇所

写真⑤:スマートICにおける上り線⇄下り線の本線横断は既存施設を活用予定



スマートIC本体及び側道等の測量・調査に着手しています(現地及び上空からドローンを使っている作業:写真はイメージです)



写真①:森將軍塚古墳より北を望む(撮影:R6.4末)

◎スマートICの疑問にお答えします

当該スマートICにおいて、これまで市に多く寄せられたご質問にお答えします。

Q なぜ、市はスマートIC整備を目指しているのか？

A

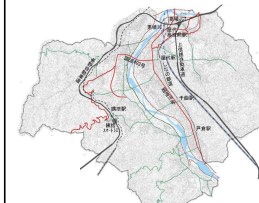
千曲市は、古代から千曲川を使った水運や陸路の発達にはじまり、近世では3つの街道(北国街道・善光寺街道・谷街道)(右図6:参照)に人々や物が行き交うことで栄えてきました。

現在は、北陸新幹線、在来線(JR・しなの鉄道)などの鉄路とともに、2本の高速道路(上信越道・長野道)が市内を走り、その結節点である更埴ジャンクションを利用することで、市内からは、首都圏・中京圏・北陸圏など各方面へ容易にアクセスできることから、千曲市は県内でも類を見ない交通の要衝地(右図7:参照)と言えます。

市では、この「地の利」の強みを活かすまちづくりをこれまで一貫して進めており、スマートIC整備もその施策の一つとなります。



↑図6:江戸時代の街道と宿場



↑図7:市内の現況交通網

Q なぜ、スマートIC整備がその場所(屋代地区)なのか？

A

スマートICの設置検討にあたり、まず高速道路上で設置が可能となる区間を調査しますが、市内においては、上信越道・長野道ともトンネル部や橋梁部が大半を占めており、これらの施設上では構造的・経済的要因から新たなIC設置は困難となります。そのため、当区間を除いた設置可能箇所の中で比較検討し、今回整備を予定している屋代地区を最適地として選定しました。

Q なぜ、近くに既存IC(更埴IC)がある中で新しいスマートICを整備するのか？

A

①.将来にわたり、持続可能な行政運営を続けていくため、千曲市ははじめ多くの自治体において、「人口の減少をいかに抑制するか」という大きな課題を抱えています。これに対し、市では、市民・企業・移住検討者など内外に向けた施策として、千曲市を選んでもらう(例:「千曲市」に住みたい・「千曲市」に進出したい等)ための魅力あるまちづくりの実現が重要となります。

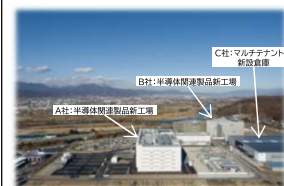
そのため、既存IC周辺では土地利用制約等(右図8:参照)により実現が難しい【新たな魅力創造拠点(広域交流拠点)】の形成を新しいスマートICの整備とともに、公民共創により周辺土地利用の増進を図ることで実現し、課題解決につなげたいと考えています。

②.令和3年8月に更埴IC近傍で新しく形成された大規模産業団地(雨宮産業団地:約14ha(東京ドーム約3個分))には、半導体関連製造工場やマルチテナント型倉庫が建築され、順次操業を開始しています(右図9:参照)。また、同じくIC近くの屋代工業団地には既に多くの企業が集積しており、今後これら団地等から発生する大型車交通が、更埴IC及び周辺により集中してしまうことが懸念されます。そのため、当該スマートIC整備することにより既存ICへの交通集中を軽減させ、産業促進と周辺環境の維持(渋滞緩和・安全性向上等)の両立を図ります。

③.更埴ICより浸水リスクが低い当該スマートICの設置により、指定避難所と緊急輸送路を結ぶリダンダンシー(多重性)が確保され、仮に浸水等により更埴IC・国道18号が通行止となった場合(右図10:参照)でも、広域からの救援・援助活動が速やかに可能となります。



↑図8:更埴IC周辺土地利用状況
IC周辺には再配置が困難な交通インフラが集中しており、拠点形成に必要なまとまりのある土地確保が困難



↑図9:雨宮産業団地



↑図10:千曲市浸水ハザードマップ
スマートIC周辺に比べ更埴IC周辺は色が濃い(→想定浸水深が大きい)
浸水による緊急輸送路寸断のケースではスマートICが活用され、広域から救援活動や物資搬送などを速やかに支援

今後も、本通信をはじめ、市報・ホームページ等で発信してまいりますので、引き続き本事業へのご理解とご協力のほどよろしくお願いいたします。

～この通信に関するご質問・ご意見は～

担当:建設部 道路河川課 SIC・一重山線整備係
課長:北村 係長:斉木 係員:岡田

Email:sic1-seibi@city.chikuma.lg.jp
Tel:026-273-1111(内線3205・3206)